

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成19年5月24日(2007.5.24)

【公開番号】特開2005-297429(P2005-297429A)

【公開日】平成17年10月27日(2005.10.27)

【年通号数】公開・登録公報2005-042

【出願番号】特願2004-118914(P2004-118914)

【国際特許分類】

**B 44 C 1/175 (2006.01)**

【F I】

B 44 C 1/175 D

【手続補正書】

【提出日】平成19年4月3日(2007.4.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

水溶性もしくは水膨潤性の樹脂からなる支持体フィルムと、前記支持体フィルム上に設けた有機溶剤に可溶な転写層を有し、前記転写層が、活性エネルギー線と加熱の少なくとも一種で硬化可能な硬化性樹脂層を有するものであって、該硬化性樹脂層が、固形分濃度55%となるように有機溶剤で希釈したときの剪断速度 $0.1\text{ s}^{-1}$ における粘度が、5~10000Pa·sであることを特徴とする水圧転写フィルム。

【請求項2】

前記有機溶剤が水圧転写に使用する活性化剤である、請求項1に記載の水圧転写フィルム。

【請求項3】

前記硬化性樹脂層が粘度調整剤を含有する請求項1又は2に記載の水圧転写用フィルム。

【請求項4】

前記粘度調整剤が無機体质顔料または有機結晶である請求項3に記載の水圧転写用フィルム。

【請求項5】

前記硬化性樹脂層が、活性エネルギー線と加熱の少なくとも一種で硬化可能な樹脂、及び熱可塑性樹脂を含有し、且つ、該熱可塑性樹脂に対する活性エネルギー線と加熱の少なくとも一種で硬化可能な樹脂の質量比P:(ラジカル重合性化合物の質量総和)/(熱可塑性樹脂の質量総和)が45/55以上75/25以下である、請求項1~4のいずれかに記載の水圧転写フィルム。

【請求項6】

請求項1~5のいずれかに記載の水圧転写用フィルムを、前記支持体フィルムを下にして水に浮かべ、有機溶剤により前記転写層を活性化し、前記転写層を被転写体に転写し、前記支持体フィルムを除去し、次いで前記転写層を活性エネルギー線照射と加熱の少なくとも一種で硬化させることを特徴とする水圧転写体の製造方法。

【請求項7】

請求項6の方法により製造されることを特徴とする水圧転写体。

【請求項8】

水溶性もしくは水膨潤性の樹脂からなる支持体フィルム上に、固形分濃度55%となるよ

うに有機溶剤で希釈したときの剪断速度  $0.1 \text{ s}^{-1}$  における粘度が  $5 \sim 10000 \text{ Pa} \cdot \text{s}$  であり、活性エネルギー線と加熱の少なくとも一種で硬化可能な硬化性樹脂層を設けたフィルム（A）と、

剥離性フィルム上に印刷インキ皮膜または塗料皮膜からなる有機溶剤に溶解可能な装飾層を設けたフィルム（B）とを、

前記フィルム（A）の硬化性樹脂層と前記フィルム（B）の装飾層とが相対するように重ねてドライラミネーションにより貼り合わせることを特徴とする水圧転写用フィルムの製造方法。